

項目

## 水文（琵琶湖への流入量・滞留時間）

琵琶湖への流入水量は、1960年代半ば頃からは低下傾向にあります。

## 【文献より引用】

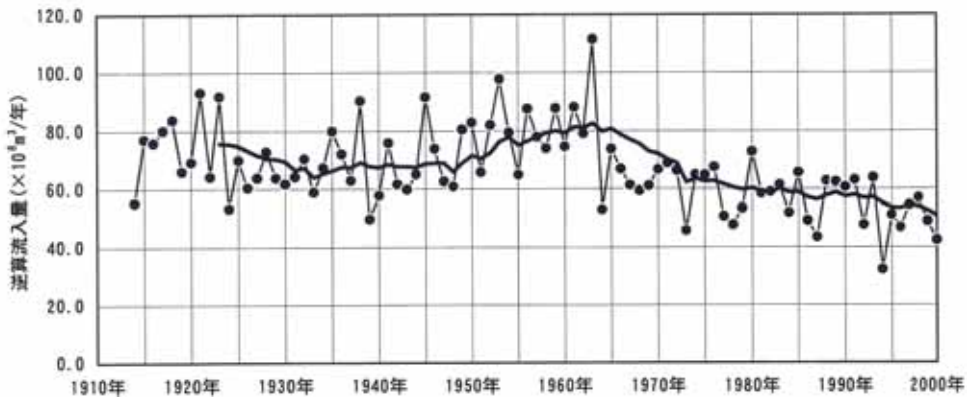


図 琵琶湖の逆算流入量

出典：彦根湖水位、各種流出量データ、湖水位変化より算出

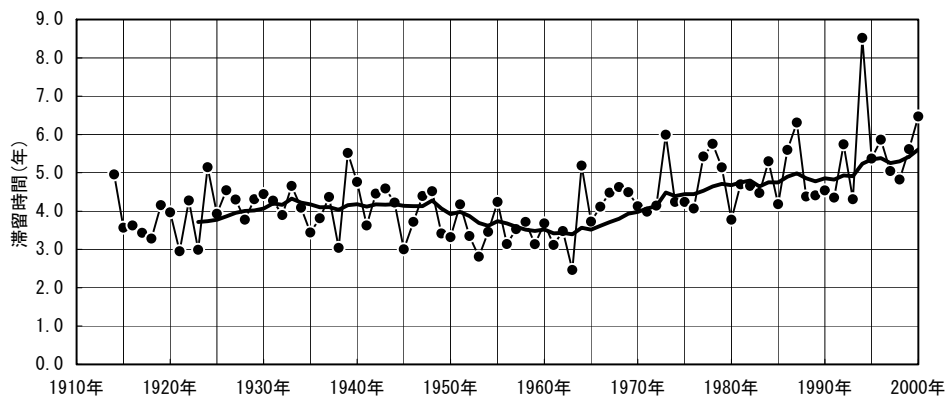


図 琵琶湖の平均滞留時間

出典：逆算流入量と琵琶湖貯水容量より算出

内容

容

## 【上記の内容より読み取れる事項（追加）】

琵琶湖の流入水量は鳥居川（明治7年、1874年）に設置された量水標をはじめとした水位観測データをもとに、湖面積を717.2 km<sup>2</sup>として、琵琶湖への流入量が求められている。1875年から1959年の統計年間のデータが得られているが、これによると流入量の平均値は年間約53億m<sup>3</sup>となっている。これを流域内の総雨量と比較すると総雨量の約72%が流入している。

琵琶湖への流入水量を長期的にみると、1900年初頭では60～100×10<sup>9</sup> m<sup>3</sup>/年の流入量であったが、1920年代中頃に60×10<sup>9</sup> m<sup>3</sup>/年程度まで減少し、その後回復傾向がみられるものの、1960年代半ば頃からは再度低下傾向にあり、近年は約60×10<sup>9</sup> m<sup>3</sup>/年前後で推移している。（逆算流入量＝（湖水位日差分×湖面積）＋洗堰放流量＋宇治発電取水＋琵琶湖疏水取水）

一方、滞留時間（湖容量÷流入量）の変化については、近年の流入量の減少にともない、滞留時間は長くなっている。